

世界の端々で

西元寺 慈子 (平成18年修了)

学部、修士を通して、辻雅男先生(農業経営学教室)に指導して頂き、2006年に修士課程を修了しました。辻雅男先生のご逝去の報に接し、謹んでお悔やみ申し上げます。一切のノートやメモを持たれずに、一気に板書していかれる講義スタイルには、驚きと感銘を受けましたし、指導教官として常にスマートで的確な助言をくださいました。辻研究室を選じた理由の一つに、将来国際機関で働きたい、という希望があり、FAO(国連農業食糧機関)で勤務経験をお持ちの辻先生の元で指導を受けたかったことがあります。今年の始めから、FAOにて勤務を始めたのですが、辻先生にご報告しようとした矢先に訃報を受け、大変ショックでした。辻先生の生前のご指導に改めまして御礼を申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。

今回、在学中にお世話になった横川先生に原稿の依頼を頂きました。横川先生には研究室の枠を超えて助言を頂き、修士1年時の半年間、ドイツのHohenheim大学への交換留学を勧めて頂きました。その時の縁がきっかけで、その後、ベトナムとタイの北部山岳地帯を研究対象とするHohenheim大学のプロジェクトに参加し、博士号を取得いたしました。ベトナムでは、現地に一年近く滞在し、少数民族のザオ族、モン族等を対象にした家計調査を行いました。現地で生活することで、調査票から得られる以上の情報を分析に役立てることができまし

た。Hohenheim大学とドイツ研究振興協会(DFG)、ドイツ学術交流会(DAAD)には、研究費も生活費も惜しみなく支援して頂き、非常に充実した5年間を送ることができました。その後、2010年からアフリカのベナンにあるAfrica Rice Center(アフリカ稲研究所)でエコノミストとして勤務いたしました。アフリカでの研究は、それまで培った知識を超えたものが必要とされ、仕事だけでなく、日々の生活も様々なチャレンジの連続でした。九大時代に、いつかはアフリカのフランス語圏に行きたいと思い、履修し続けたフランス語は、文法こそ役に立ちましたが、残念ながら農家と会話するには十分ではありません(訛りがきついため)。毎日の停電は当たり前で、水漏れ、雨漏り、またベナンのコトヌー(ベナンの最大都市)は海拔0mかそれ以下なので、雨期にはほとんどの道路が冠水し、車が川の中を走っているかのような様子でした。日本車が大人気でしたが、その理由を誰に尋ねても、「だって日本車は泳げるだろ」と言われたのを覚えています。日々カビとゴキブリと蚊と格闘しながら(時に負けてマラリアにかかりますが)、ゴキブリはベトナムの方が大きいな、など比較しつつ、住んでいる街を離れて農村へ調査へ行く度に、バオバブの木が生い茂る西アフリカの自然の美しさに身も心も癒されておりました。様々な慣習や風習、信仰が根深く残っているために、時にそれらが研究の妨げとなりましたが、結局は、新し

いことを新しい場所で根付かせるためには(私の場合、伝統的にコメを生産していない低湿地で水田を普及させよう、という試み)、やはりbottom upで住民参加型でないと何事も進まないし、浸透しないのだ、ということをも身をもって体験致しました。アフリカにおける緑の革命を実現させようと、アフリカ稲研究所が開発したネリカ(New Rice for Africa)という品種は、陸稲と水稲と合わせて数十種類ありますが、例えば、制度的、また慣習的にタネの分配、流通が難しい等、他にも様々な要因から、普及に時間がかかっています。ネリカの普及においてもその一端が見られるように、西アフリカの農業開発には、統治体系、制度、慣習など、政治的・社会的・経済的要素が複雑に影響しており、一筋縄ではいかないところがあります。それでもガーナのように、政治的に安定し、経済的成長を遂げている国もあります。アフリカ稲研究所では、CGIAR(国際農業研究協議グループ)が掲げている「開発のための研究」を



帰省先のコートジボアールにて、娘と

念頭に研究を行いました。我々の研究が途上国の農業開発に微力ながらも確実に影響を与えられることを信じて日々邁進するのみです。

2012年からフィールドを離れてローマに在住し、研究よりも開発に近い仕事を行っていますが、常にベトナムとアフリカでの研究生活から学んだことを念頭に置いて、新しい事にチャレンジしています。そうすることによって自然に思考範囲の箍が外れ、新しいアイデアが浮かんできます。イタリアでの生活はドイツと比べて不便が多いですが、ローマ人の気楽なラテン気質に合わせながら、家事、子育て、仕事、の三拍子に日々奮闘しています。

最後になりましたが、ベトナムとベナンで、九大時代に院生部屋を共有した留学生と偶然一緒に仕事をする機会がありました。思いもよらない所で思いもよらない旧友に出会うと、毎回驚きで泣いてしまいますが、世界中で九大のOB・OGが活躍しているのを肌で感じる次第です。



雨期に冠水した道路。それでも車は走ります。